

食品流通構造改善対策債務保証業務運用基準

制 定	平成18年	9月12日	18食流機構第257号
一部変更	平成19年	4月 2日	19食流機構第71号
一部変更	平成19年	6月29日	19食流機構第169号
一部変更	平成20年	7月30日	20食流機構第204号
一部変更	平成20年	8月22日	20食流機構第264号
一部変更	平成20年	10月21日	20食流機構第304号
一部変更	平成21年	12月 1日	21食流機構第308号
一部変更	平成23年	11月 2日	23食流機構第178号
一部変更	平成26年	11月18日	26食流機構第298号
一部変更	平成27年	8月10日	27食流機構第219号
一部変更	平成28年	7月 1日	28食流機構第228号

1. 目的

この運用基準は、食品流通構造改善促進法（平成3年法律第59号）（以下「法」という。）第12条第1号の規定に基づき、公益財団法人食品流通構造改善促進機構（以下「機構」という。）が実施する債務保証業務の運用に関する基本的事項を定め、もって業務の適正な運営に資することを目的とする。

2. 債務保証の対象事業

債務保証の対象事業は、公益財団法人食品流通構造改善促進機構債務保証業務規程第4条に規定する認定構造改善事業、認定食品流通円滑化事業、承認経営革新事業若しくは認定異分野連携新事業分野開拓事業又は認定経営力向上事業、認定総合効率化事業、認定地域産業資源活用事業又は認定地域産業資源活用支援事業、承認企業立地計画又は承認事業高度化計画に従って行う企業立地又は事業高度化のための措置、認定農商工等連携事業、認定生産製造連携事業及び認定総合化事業又は認定研究開発・成果利用事業（以下「認定構造改善事業等」という。）とする。

3. 債務保証の対象者

債務保証の対象者は、認定構造改善事業等を実施する者（次に掲げる者にあつては、それぞれ次に掲げる法律の規定に基づく債務保証によることが困難であると認められるものに限る。）とする。

- ① 農業信用保証保険法（昭和36年法律第204号）第2条第1項に規定する農業者等
- ② 独立行政法人農林漁業信用基金法（平成14年法律第128号）第13条第2項に規定する林業者等
- ③ 中小漁業融資保証法（昭和27年法律第346号）第2条第1項に規定する中小漁業者等
- ④ 信用保証協会法（昭和28年法律第196号）第20条第4項に規定する中小企業者等（次

に掲げる法律の規定に基づく認定又は承認を受けたものを除く。)

- ア 中心市街地活性化法第48条
- イ 中小企業等経営強化法第8条、第10条又は13条
- ウ 流通業務総合効率化促進法第4条
- エ 地域産業資源活用事業促進法第6条
- オ 企業立地促進法第14条又は第16条
- カ 農商工等連携促進法第4条
- キ 米粉・エサ米法第4条
- ク 六次産業化法第5条又は第7条

4. 債務保証の対象者が中小企業者等である場合の条件

債務保証の対象者が3の④に掲げる中小企業者等である場合には、その債務保証については、次の①、②及び③の条件を満たすものとする。

- ① 当該中小企業者等が法人設立後5年を経過していること。
- ② 当該中小企業者等の財務諸表が次のいずれかに該当するものであること。
 - ア 公認会計士の監査を受けたものであること。
 - イ 当該中小企業者等が会社法（平成17年法律第86号）第2条第8号の会計参与設置会社であって、当該財務諸表等が同法374条第1項の規定に基づき作成されたものであること。
 - ウ 「中小企業の会計に関する指針」（日本公認会計士協会、日本税理士会連合会、日本商工会議所、企業会計基準委員会、制定）に基づき作成されたものであって、その旨税理士等により確認されたものであること。
- ③ その債務保証の対象資金が主取引銀行の借入に係るものであること。

5. 保証に係る資金の種類

保証に係る資金は、認定構造改善事業等の実施に必要な設備資金（土地を含む。）並びに認定構造改善事業等の維持発展に必要な試験研究費、試作費、市場調査費等の運転資金とする。

6. 一被保証者に対する保証限度額

一被保証者に対する保証金額の最高限度は、債務保証基金4.2億円と機構の基本財産8.8億円の合計額13億円の50%以内とする。

ただし、一被保証者に対する個別の保証金額は、その者の事業規模、必要資金額、信用力等を総合的に判断して本基準12に定める食品流通構造改善対策債務保証事業審査委員会において、具体的に決定するものとする。

7. 債務保証期間等

債務保証の期間は、20年以内で次に定める期間とする。

- ① 認定構造改善事業等の実施に必要な施設整備資金にあつては、20年以内（被保証者が中小企業者等である場合にあつては、5年以内。ただし、政府系金融機関の融資を受けて実施する施設整備に伴う借入にあつては、当該融資事業の融資期間を超えないものとする）

る。)とする。

- ② 認定構造改善事業等の維持発展に必要な試験研究費、試作費、市場調査費等の運転資金にあっては、原則として5年以内（被保証者が中小企業者等である場合にあっては、3年以内）とする。
- ③ 保証する被保証者の借入金の据置期間は、3年以内（被保証者が中小企業者等である場合にあっては、2年以内）とし保証期間の内数とする。

8. 債務保証料・債務保証料率

- ① 債務保証料は、借入の元本に係る保証債務の残額に対して、年0.8%以内の割合（債務保証料率）を乗じて得た額とする。
- ② 債務保証料率は、別に定める「食品流通構造改善対策債務保証事業審査要領」に基づく当該被保証者の財務分析調査結果、契約日の金利水準等を総合的に判断して行うものとする。

9. 保証人・担保

- ① 原則として連帯保証人を徴求するものとする。（ただし、株式上場会社は除く。）
- ② 必要があると認めるときは、被保証者及び連帯保証人から担保（不動産、有価証券等）を徴求するものとする。

10. 債務保証の範囲（保証割合）

債務保証の範囲は、借入の元本、利息及び損害金の合計額の90%とする。

損害金は、最終弁済期日（期限の利益喪失の日を含む。）の翌日から起算して60日を超えない期間に係るものとする。ただし、分割弁済期日に約定弁済が行われない場合の当該損害金については、当該分割弁済期日の翌日から起算して120日を超えず、かつ、最終弁済期日の翌日から起算して60日を超えない期間に係るものとする。

11. 債務保証の引受けの審査

債務保証の引受けの審査にあたっては、あらかじめ債務保証委託申込者から当該企業（子会社を含む。）の法人概要書、直近3期分の決算報告書（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、個別注記表、事業報告書）、確定申告書（勘定科目明細書付）及び認定構造改善事業等の事業計画書並びに3のただし書きに該当する者にあっては、それぞれの債務保証機関が発行する「当該法律の規定に基づく債務保証によることが困難である」旨の証明書を徴するものとする。

12. 審査委員会による審査

債務保証の諾否にあたっては、あらかじめ別に定める「食品流通構造改善対策債務保証事業審査委員会（以下「審査委員会」という。）」の意見を聴するものとする。

13. 財務状況報告

債務保証期間における被保証者の財務状況について当該被保証者から毎事業年度終了後に決算報告書を徴し、審査委員会に報告するものとする。